

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ロチン・イシツェレン，白石典之

氏名のローマ字表記：Lochin ISHTSEREN, Noriyuki SHIRAIISHI

所属：モンゴル科学アカデミー考古学研究所，新潟大学

専門分野：考古学

発表のタイトル：モンゴル国における最古の鉄器文化～オブス県チャンドマニ遺跡 1 号墓の資料から～

発表要旨（600 字～800 字程度）：

モンゴル遊牧民の暮らしの中で、鉄は馬具をはじめとしたさまざまな道具に用いられ、欠かすことのできない原材料となっている。近年の考古学調査の成果から、匈奴やモンゴル帝国といった遊牧王朝の強大化にも、鉄が重要な役割を果たしたと考えられるようになってきた。しかしながら、ゴビ以北のモンゴル高原に、いつ、どのように鉄がもたらされたのか、じつは未解明なのである。モンゴル史の時代区分の上に、初期鉄器時代なるものが存在するが、その開始時期は定まっていない。

そこで発表者は、ゴビ以北のモンゴル高原における鉄器の導入時期の解明を目指した。分析の対象としてモンゴル国オブス県オラーンゴム市にあるチャンドマニ遺跡の出土資料を選んだ。この遺跡は 1972～74 年に調査されたモンゴル国を代表する初期鉄器時代の墓地遺跡である。

発表者は、チャンドマニ遺跡の中で最も古相を示す 1 号墓の資料を対象に、放射性炭素年代測定法で埋葬時期を調べた。それによると紀元前 4 世紀前半という年代が得られた。ただ、遺物の形態や墓の構造を近接するトゥバ地方の初期鉄器文化と比較検討すると、紀元前 5 世紀末に遡る可能性も否定できなかった。そこで、ゴビ以北のモンゴル高原に鉄器が入ってきたのは、いまのところ紀元前 5 世紀末～紀元前 4 世紀前半と幅広におさえておくのが妥当であろう。

鉄器使用の開始年代がある程度定まったことで、鉄がモンゴル遊牧民たちの生活に、どのような影響を与えたのか、これまでと比較して具体的に論じられるようになったと考える。本研究の成果は、モンゴル史研究の進展に少なからず寄与するであろう。